

第3回 三次市立学びの多様化学校等の設置に係る検討会議 議事録

件名	第 3 回 三次市立学びの多様化学校等の設置に係る検討会議		
日時	令和 8 年 5 月 15 日(金) 10：00～12：00	場所	旧君田中学校ランチルーム
出席者 14 名		出席者（事務局）	
・ 七木田座長 ・ 田中副座長 ・ 山崎委員 ・ 今村委員 ・ 水戸委員 ・ 赤木委員 ・ 竹谷委員 ・ 佐々木委員 ・ 石田委員 ・ 渡邊委員 ・ 宍戸委員 ・ 田原委員 ・ 宮本委員 ・ 錦織委員		・ 迫田教育長 ・ 宮脇教育部長 ・ 藤本教育部次長 ・ 渡部教育企画課長 ・ 新谷学校教育課長 ・ 高木学びの多様化学校準備担当係長 ・ 高野教育企画係長 ・ 平田主査 ・ 平主任主事 ・ 曲田専門員 ・ 山崎不登校支援政策コーディネーター	
欠席者 1 名			
・ 小根森委員			
オブザーバー 1 名			
・ (株) 原井隆設計事務所 原井			
議事	(1) 三次市立学びの多様化学校について (2) 今後のスケジュールについて		

事務局 定刻となったため、第3回三次市立学びの多様化学校等の設置に係る検討会議を開会する。
本日は傍聴の希望があるため、入室を許可する。

～傍聴者入室～

続いて、本会の開会にあたり教育長の迫田からご挨拶申し上げます。

教育長 本市の行政施策に関わって、皆様方には日頃よりご支援ご理解をいただいておりますことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。
これまで、2回にわたり検討会議の開催をしており、昨年度いただいたご意見、気づきを踏まえて、三次市における学びの多様化学校設置の申請書を作成し、令和9年4月開校を目指して文部科学省に提出を済ませたところである。文部科学省とも継続的に連携し、制度設計について詳細を詰めていきたい。この取組は、「みよし学びの共創プラン」という5ヵ年計画に基づき、本市の全ての子どもたちにとって「行きたい」、「学びたい」、「楽しい」と思える学校の環境を整えていくものである。具体的な手段として、学校に行きづらい、学びづらいと感じている子どもたちを対象に、学びの多様化学校、あるいは小学生を対象に小規模特認校を計画し、意見をいただきながら進めている。今回は、学びの多様化学校として活用する当校舎

を見て、意見をいただきたい。

先ほど申し上げた小規模特認校についても検討会議を計画しており、時期を改めて案内する予定である。

限られた時間だが、今回から地域の皆様方にも入っていただき検討を行う。この取組が子どもたちにとって素晴らしい学校環境になるようにしていきたい。

大変簡単ではあるが、ご挨拶とさせていただく。

事務局

続いて、次第「3 検討会議委員」の紹介に移る。

この度、新たに委員にご就任いただいた皆様には、就任にあたりご快諾をいただき厚くお礼申し上げます。委嘱状並びに任命書については、お一人ずつお渡しさせていただくのが本意ではあるが、時間の都合により、既に席に配付させていただいていることをご了承いただきたい。

本会議の委員については、設置要綱第3条に定める各分野の方15名以内で構成することとしている。今回検討委員としてご就任いただく委員の皆様を紹介させていただく。

～各委員の紹介～

事務局

なお、本会議の所掌事務は、設置要綱第2条「学びの多様化学校等の設置に関する提言を行うこと」と定めている。委員の皆様にはそれぞれの活動分野からご意見をいただきたい。任期については、設置要綱第4条により、委嘱または任命した日から令和9年3月31日までとさせていただく。

また本日は、旧君田中学校改修にあたり設計をお願いしている、原井隆建築設計事務所の原井様にお越しいただいている。

続いて、本日出席している教育委員会事務局の職員を紹介する。

～事務局の紹介～

続いて、第3回検討会議の開会にあたり、七木田座長より一言ご挨拶をいただく。

七木田座長

新緑に囲まれ、素晴らしい環境に学校ができるのだと感じている。

先日、学びの多様化学校について質問を受けた。詳しい内容については学校が開校してから聞いてほしいと伝えた。また別の日に、NHKで神奈川県大和市での学びの多様化学校の特集をしていた。「先生が変わる、学校を変える」という内容で、先生が変わることは大きいと感じた。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 事務局 ここからは七木田座長に進行をお願いする。
- 七木田座長 それでは、次第「4 議事（1）報告」に入る。「（仮称）三次市立学びの多
様化学校の概要について」事務局から説明をお願いする。
- 事務局 ～資料 1、別紙 1、2 に沿って説明～
- 七木田座長 ただいまの説明に対して、ご意見やご質問があればお願いします。
- 山崎委員 評価について質問する。普段は生徒本人の希望を踏まえつつ評価を行い、
高校進学を希望した際には、出願基準に沿った評価を提出すると思うが、
本人の頑張りを評価とした場合、他の市立中学校との不公平感はどうする
のか。反対に、本人の頑張りと成績に差が出る場合はどう考えるのか。
- 事務局 評価については、学習指導要領に定められたものをどの程度習得している
かという点を評価するため、厳しい数値になる可能性もある。成長やプロ
セスを肯定的に伝え、フォローしていくように考えている。
- 山崎委員 学びの多様化学校の生徒本人に、公立高校の受験では基準が設けてあり、
そこに向けて頑張ることが必要であることを伝えておき、事前にそれを理
解していることが大事である。何も知らずに、ふたを開けたら頑張りが必
要だったということがあってはいけない。
- 穴戸委員 通学方法として、保護者による送迎という新たな項目が入って良かった
が、保護者による送迎ができない場合、学校からの迎えがあれば来られる
ケースがたくさんある。学びの多様化学校でも、このようなケースが出て
くるのではないか。
- 事務局 スクールバスの運行と送迎の補助制度の導入を検討している。しかし、不
登校傾向のある生徒が対象であるため、調子が良い時期もあれば、学校に
来られない時期もあると思う。そのため、そうした状況を十分に想定した
うえで学校からのアウトリーチ、たとえば家庭訪問などを丁寧に積み重ね
ていくことが大切だと考えている。その中で教員が対応するのが良いの
か、あるいは別の誰かが担うのが適切なのか、その点については各家庭の
状況や、今後私たちがどのような体制を整えていくかを踏まえて検討して
いく必要があると考えている。現段階では、そうした可能性も十分に想定
し、各家庭の状況に応じた対応を進めていきたい。
- 穴戸委員 通学方法を示していただいたが、この通学方法によって登校できる子ども
は不登校の中でも極めて元気な子どもではないか。私の考えでは、登校で

きない子どもがかなり多いと考える。そうした中で、市教委は三次市内の登校できない子どもたちをどう見ているのか、基本理念を知りたい。三次市には100人程度長期欠席の生徒がいるが、学びの多様化学校に来られない生徒についても考えてもらいたい。

佐々木委員 現在SSRでは、個別の授業を行っている。そこでは、親学級で1年間のスケジュールに沿って授業を進めているが、ついていけない子どもは自分に合った問題に取り組んでいる。ここで高校受験に向けた授業を行っている。

事務局 学びの多様化学校では、教育課程の特徴として授業時数を減らしているが、この教育課程の内容をベースに学び直す時間を設け、工夫をしながら学びを進める。

七木田座長 その他なければ、次第「4 議事(2)協議」に入る。論点1「教室づくり、設備、備品の工夫について」事務局から説明を求める。

事務局 ～資料2、別紙1、3に沿って説明～

七木田座長 事務局からの説明を踏まえ、ご意見ご質問をお願いします。

穴戸委員 資料2の6ページにある1日の生活の流れの中に、子どもたちが掃除をする時間を入れてはどうか。綺麗にしていく作業が子どもたちの育成につながると思う。掃除時間のことも想定していただきたい。

錦織委員 設備部分について2つ申し上げたい。
1つ目はオープンスペースについてである。イラストを見ると、心理的に安心感を持てるスペースになっている。閉校するまではここをリーディングホールとして本をたくさん置き、どの学年も休憩時間に自由に本を読めるスペースだった。これからは何をしてもいいスペースになると思うが、ここはエアコンの設置がないため、是非とも空調関係を整えて、安心して生活できるスペースにしていきたい。
2つ目は3階を活用するかどうかである。3階にも有用なスペースがあるが、ここもエアコンの設置がない教室が多くあり、死角になるところもある。また、カメムシが大量に発生するスペースのため、どのように活用するのか。

事務局 3階には音楽室や美術室等があるため、使わないことは運営上難しいが、生徒の安全管理上、1階と2階をメインで使用する予定である。3階は鍵をかけ、使用するときには開けて使うことも考えている。現在は3階の窓が

フルオープンになるため、安全管理面からもストッパー等の安全面の工夫を考えている。オープンスペースはエアコンを取り付けるよう検討する。

佐々木委員 資料2の6ページのイラストでは、みんなが顔を見て生活する前提に感じるが、1人で過ごしたい子どもは違う場所で過ごすことができるのか。

事務局 1階に個別ゾーンとして、個室や和室という1人で過ごせるスペースを準備する予定である。

佐々木委員 個室で過ごすパターンと、オープンな場所で過ごすパターンのどちらも対応できるのか。

事務局 個室で個別に過ごすだけでなく、オープンスペースの中に1人で過ごすような空間をつくる配慮をし、一人ひとりに合わせられるよう考えている。

七木田座長 それでは3つのグループに分かれて校内視察を行う。
事務局から誘導、説明をお願いする。

事務局 ～3つのグループに分かれて視察～

七木田座長 それでは事務局の説明を踏まえ、ご意見ご質問をお願いする。

赤木委員 最初の説明であったが、木目調を基調に壁をイメージ図のように全て変更するのか。
またトイレが狭く、洋式化にするのであれば女子トイレの数が確保できるのか。
校内は色々な教室があり、子どもたちにとっては学びやすい環境になると感じた。

事務局 壁については木目調がよいのではないかと考えているが、ご意見をいただきながら決めていきたい。
トイレは、工夫して使いやすさを追求していく。

原井隆設計事務所 トイレについてはこれからのプランによるが、一般的には和式を洋式に変えるときは基数を減らして整備している。

水戸委員 個別スペースは狭いほうが落ち着く人は多い。部屋を工夫し、閉じた感じにすると安心できるのではないか。

宮本委員 食事について基本は給食、あるいは弁当だが、保護者と一緒の食事を希望

すれば可能か。また、本人が保護者に帰ってほしくないといった場合、保護者が学校に残ることは可能か。

現在市長宛てに、県内から三次市内に住所を移す方のために、君田町にある市営住宅6部屋の改修をお願いしたところ、7月頃から順次改修を進めて住める状態にしようかということもいただいた。

やはり子どもが一番である。どのような方法が良いか想定した方がよいのではないか。

七木田座長 これから学びの多様化学校として新しく開校されるが、これまで君田中学校としての長い歴史がある。学校に残されている卒業生の作品、校歌、歴史はどうするのか。残すべきではないか。

事務局 まだはっきりと決まったものはないが、保管するスペースが必要とも考えている。

七木田座長 学校教育とは別に、残されている子どもたちの作品も学校らしさそのものだと考える。これらもこの学校にとって必要ではないか。

宮本委員 地域から、小中一貫の学びの多様化学校あるいは小規模学校にできないだろうかという意見があった。

今村委員 校内視察の中で共創室がとても印象に残った。色々な道具がある部屋で面白い。川崎市では元々工場だった場所をフリースペースにしており、色々なものを作る余白を残している。そこでは理科の一環として川を作ったり、地域の方がそこで椅子を作ったり、壁を塗ったりしている。そのような形で地域の方が関わり、不登校だった子も、そうではない子も集まっている。道具を使って作ることが自分自身を取り戻す機会になっている。しかも作ったものが買われていくので、その経験もまた面白いと思う。

また、宮城県石巻市雄勝町にある廃校で、キャンプなどをできるようにして多くの人に遊びに来てもらっている。あえて作りかけの場所を作っておき、アーティストの方も加わり子どもたちと一緒にリノベーションしていく。この場所も同様に、子どもたちが参加して場所を作り上げることが学びになるのではないか。しかも、学校の先生以外の人たちと作り上げることが新しい居場所を見つけられるのではないか。そのように考えたため、あえて完璧に作ってスタートするよりも、作りかけを組み込むことで面白い場が発展していくと思う。

宍戸委員の言われた掃除の時間にも賛成する。不登校の子どもたちに対する居場所作りは子どもたちがお客さん扱いになりがちだが、社会で生きていくためには何を学ばなければならないのかということ、自分でその場所をよりよくすることであり、参画し踏み込むということだと思う。そのよう

な意味で共創の経験も大切だと言える。

- 事務局 今いただいた意見を参考に、そのような空間だったらよいと強く感じた。希望のある子、強みのある子たちを見つけて、一緒に考え、作ることも取り入れた学校にしていきたい。
- 七木田座長 校内視察の際に聞いたのだが、共創室に外からのエントランスを作る計画なのか。
- 原井隆設計事務所 共創室は、外からエントランスを作らなくても校舎から切り離された建物であるため、既存の入口を使う予定である。
- 山崎委員 3 階を実際に見せていただくとスペースがあり、子どもたちが上がると死角になるのではないかと。階段の封鎖まではしなくてもいいと思うが、1 人になりたい子どもに見守りの目を届かせることはソフト面の課題である。難しいことかもしれないが、図書室には職員や地域の人が常駐しているのもいいと思った。
普通教室のイメージ図を見ると、明るく素敵だと思うが、まだ教室を感じさせる。黒板もホワイトボードも学校にある形でなく、例えば壁一面の黒板などはどうか。机と椅子も同じような机ばかりがあると教室を感じさせる。ソファっぽい机と椅子や、1 人で勉強できる机、丸い机、丸い椅子で座り心地も多様なものはどうか。配置する設備も選択ができるものがよい。
- 水戸委員 すでに考えられていると思うが、自分の過ごしたい空間を自分で選べるように様々な空間を用意してもらいたい。オープンスペースの中で1 人になれる場所、2 階の中に1 人になれる場所、集団を完全に避け1 人でこもる場所、部屋にこもるが周りの様子も小耳に挟む程度にはわかる場所など様々な過ごしたい空間があり、その時の状態によっても変わるため、状態に応じて本人が選べるようにしてもらいたい。あちこちに様々な空間があることが子どもたちにとってはありがたいと思う。
- 佐々木委員 音楽室に楽器が並べてあり、この楽器を自由に使えたらいいと思った。学校は許可がないと使えないが、自由に使えれば生徒の興味関心が広がっていくと感じた。共創室の機械も危ない面があるが、のこぎりへの興味関心が学びに繋がっていくと思う。そのような道具類をオープンに使えるようにしてはどうか。
また、送迎で来校した保護者が待機するスペースを設けてはどうか。保護者同士の交流の場として、情報を共有したり、愚痴を聞いたり悩みを聞くことができるのではないかと。

- 田中副座長 現在、体育館の横が駐車スペースになっている。最初は親と離れることに不安を感じている子どもたちはそこから校舎まで歩くことになるが、すでに登校している子どもが窓から見ている可能性もある。それが嫌な場合は裏の駐車場を利用可能にしたり、保護者が校舎へ一緒に入り落ち着かせて教室に行かせたりすることもあるのではないかな。
- 田原委員 この学校に子どもたちが来たいと思うことが一番である。子どもたちにとって技術室、音楽室、美術室は魅力的であり、自分の気持ちを立て直すためには、そこを生かして欲しいと思う。学校なので、カリキュラムや成績が絡むのは分かるが、まずは気持ちを立て直してこそ学業に向かっていけると思うので、この学校ではこれらの特別教室を生かして欲しいと思った。
校内視察の中で小鳥の巣箱を見つけたので質問をしたら、子どもたちだけで作ったものだと言われた。巣箱づくりなども地域の方と一緒に取り組み、さらに鳥の観察も取り入れたら、子どもたちの生きる力に繋がるのではないかな。
- 七木田座長 その他なければ、論点 2「入学・転入学までの流れについて」事務局から説明を求める。
- 事務局 ～資料 3、別紙 3 に沿って説明～
- 七木田座長 事務局からの説明を踏まえ、ご意見ご質問をお願いします。
- 石田委員 旧君田中学校に直接来てみたいと思っていたところ、今日の会議会場であったため、三次駅からバスを利用して来た。乗用車の高さとは違うバスから見る風景、自然、田んぼや畑、荒れた土地を見ながら来た。そして学校へ来ると色々な道具が揃っている。この環境によって、子どもたちのやる気生まれる可能性もあるのではないかな。よって、1 人でも多くこの学校に来てみる体験を設けてもらいたい。乗用車から見る高さではなく、バスからの景色を体験して欲しいと思う。私はバス停から歩いてきたが、一息あるなと感じた。しかし、用意されるバスは学校までの運行なので、安全に登下校できるものと思う。1 人でも多くの生徒や保護者の参加を願っている。
- 七木田座長 ステップ 2 の面談の際、本人が来ない場合は家庭に出向いて面談を行うのか。
- 事務局 基本的には指定した場所に来ていただきたいと考えているが、来られない

状況等も考えられるため、実施場所のあり方について協議、検討していく。

宍戸委員

資料3のステップ1の前にもう1つステップが欲しい。各学校、市教委も子どもが何に苦しんでいるかを把握していると思うが、このような子どもたちにいきなり保護者から電子申請をしてもらうよりも、もう少し親切な対応が必要ではないか。三次市で初めての学校なので、規格外の発想がほしい。今の三次市の子どもたちと保護者について考え、どうすれば申請を出してもらえるのか検討してほしい。

事務局

事務局でも、8月がスタートでは駄目だと考えている。学びの多様化学校を設立することの情報発信が何よりも大事だと考えており、それは市民、地域、保護者はもちろん、学校教職員にも理念の方向性を直接伝えて理解を図り、学校からのアプローチを受け入れられない家庭にも広く関係者から声をかけてもらうように方向を探っている。難しさもあるため、協力をいただきながら8月を迎えるよう丁寧に連携を進めたい。

今村委員

ステップ1の前に家庭にアウトリーチしている福祉分野の関係者から情報を運んでもらうことが大事だと思う。

資料3のフローはシンプルに書かれているが、保護者に渡す資料では面談という言葉を使わない方がよい。面談という言葉が保護者には怖い言葉に感じられるため、相談会などのハードルをしっかりと下げた言葉でこの場所に来て大丈夫だと思ってもらうことが大切である。その上でやさしい言葉で告知する方法を考えていただきたい。

ステップ3の学校体験会に学校説明会の要素を入れてはどうか。その体験内容として、例えば他の地域で不登校だった子がこのような学びにつながり、自分の人生に自信をもっているといったように、当事者だった方からの経験を子どもや保護者に語ってもらい、より具体的なイメージを持ってもらうのはどうか。こうしたロールモデルとなる事例を紹介することは、学校説明会や体験会の中に組み込む要素として、とても効果的ではないか。もし必要があれば、おんせんキャンパスから卒業生に協力を依頼することもできる。

佐々木委員

私は、不登校の子どもは説明会や体験会に来ることができないと捉えているが、資料3は会場に来いと言っているように受け取れる。説明会に来られるならば、本来は学校にも来られる。体験会に来られるなら、通うこともできるはずだが、実際には来られないからこそ、保護者が何とか申し込もうとしたり、こちらから説明に伺ったり、体験の機会を作ったりする必要があると思った。今は、こちらからの働きかけが特に必要ではないかと感じている。

転入学の決定について、「この子は通常の中学校のクラスでもやっていけ

るのではないかと判断されることもあるのか。

事務局

これから子どもや保護者にとって伝わりやすい言葉を選び、慎重に伝えていこうと思う。

入校検討委員会で「総合的に判定する」という一文を強く受けとめられていると思うが、想定としてはステップ1で申請した時点から興味関心を持っていると判断し、そこから学校との連携を開始し、さらに家庭や繋がりのある人との連携を膨らませていく予定である。そのため、よほどのことがない限り「あなたはこの学校には向いてない」という判断にはならない。連携の中で多様化学校ではない学校に所属する方が良いのではないかと判断し、その方向を選ぶことがあるかもしれないが、書面だけで向き不向きの判定はしないように考えている。

また、保護者同士でつながりを持ち、その口コミで印象を和らげることも大事なことでと考えており、5月末には不登校や不登校傾向の子の保護者を対象に集う会を企画している。そのような繋がりからこの学校に興味を持ってもらえたらいいと考えている。それが全てではないが、繋がりから少しずつ連携を深め、丁寧に進めていきたいと考えている。

赤木委員

これは令和9年4月からの入学説明だと思うが、来年4月から入学を希望する子どもは実際に学校を見る機会はないのか。体験会は君田地区で行うということだが、学校は見られないのかという意見があった。また、開校してから行ってみたいと思う子どももいると思う。その場合は年度途中からの転校が可能なのかを知りたい。

また、保護者の集いの案内を学校から配布、説明しているが、学校だけではなく、市役所の中でも家庭に関わっている課もあると思うので、教育委員会だけではなく、こども家庭支援課など他の課もあげてアプローチをしていく方がいいのではないかと。

これは情報提供だが、案内をした時に保護者から小さい子どもがいるから難しいと言われることがある。こちらは大丈夫だと思っていると伝えるが、状況が分からないため行かれないと言われる。何らかの手立てなどがあれば行くことができる人が増えるのではないかと。

穴戸委員

教育委員会では「こういうことを作った」、「関心持ってください」、「宣伝してください」、「丁寧にやります」と言われているが、行政側が出向いて引っ張り出さないと難しい。満身創痍の保護者が相談に来られたら、そこから工夫が始まる。こちらが出向き、子どもの顔や性格を見て、手を引っ張って時間をかけてやると、うちのフリースクールに来てもらえる。そのような発想や思想が、今回の学びの多様化学校にもあった方がいいのではないかと。

たくさん子どもたちが、いわゆる放置をされている。放置を避けるのな

ら、やはり引っ張り出す発想が必要ではないか。

山崎委員 検討委員会で入校を検討するということが、プロセスの中にアセスメントがないと思った。なぜ不登校に至っているのか。ヤングケアラーであったり、心理的なエネルギーが不足していたり、学校で自分の特性を理解してもらえない体験が続いていたりという情報を連携して共有できる環境があるならば、話し合った結果をアセスメントとして、入校後に先生方に共有され、支援方針に活かすことが必要ではないか。

七木田座長 どのステップにアセスメントを入れるべきか。

山崎委員 資料 3 ではステップ 4、5 を通してではないかと思う。本当は 3 の体験会に来た子どもの様子を把握しながら多面的に見ることがアセスメントを正確にしていると思う。

今村委員 1 年目はだんだんと認知が広がり、ゆっくりとしたスタートになる可能性があると思うが、長期欠席の生徒が 116 人いる中で 30 人のキャパシティではどこかのタイミングで溢れてしまうと思う。入学の判断基準は事前に決めておく方がいいと思うが、どのように設定するのか。
視察されているのでご存じかと思うが、草潤中学校は長期にわたって欠席が多い子、困難度が高い子を優先している。ただ、軽度の不登校の子を受け入れながらというところもある。不登校の難易度が高いから、これだけ手厚く特別な場所を準備するとするのか、行きたいと希望する子がいれば、入学を許可するのか、そのグラデーションをどのあたりにするか設定していく必要があると思う。私は、人気校になるのではないかと思う。

事務局 色々なグラデーションがあるため、市内全体で多様な居場所を設置している。それぞれの魅力をもってやることが大事かと思うが、1 年目は周知してどれだけの子どもが来てくれるのかというところがメインになる。

今村委員 もし、1 年目から 40 人の希望があったらどうするのか。

事務局 学びの多様化学校に魅力を感じて、来たいと思う意思があるかどうか、まずは大きな判定材料の 1 つだと思う。

七木田座長 2 つの論点について意見をいただいた。実際に教室を見た上での教室づくり、設備、備品や入学までの流れについて、生徒がゼロである可能性も考えてもう少し詳細で柔軟な対応を検討する必要がある。
伝えきれてない意見があればメール、ファックスまたは口頭で事務局まで連絡をお願いします。

七木田座長	その他なければ、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。
事務局	～資料に沿って説明～
委員一同	～質疑なし～
七木田座長	その他質問や意見等あるか。
委員一同	～質疑なし～
七木田座長	以上、予定していた議事はすべて終了した。 議事の円滑な進行にご協力いただき感謝申し上げます。 事務局においては本日の意見を反映した学校づくりをお願いする。 進行を事務局にお返しする。
事務局	それでは次第「5 その他」を進める。 本日の会議にて伝えきれていない意見があれば、5 月 18 日まで受け付ける。概要は後日送付予定である。 以上をもって、第 3 回三次市立学びの多様な学校等の設置に係る検討会議を終了する。